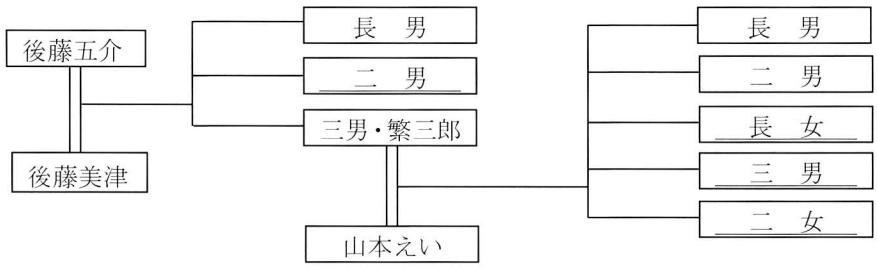
# 四条派　仁林聾仙

岐阜県　長尾充恒

出生と家族

1865年慶応元年２月１日大垣藩士後藤五介の三男として大垣代官町に生まれる。本名後藤繁三郎と言い、後藤家系と改名（仁林）についての資料が残っていない。




失聴と未就学

明治３年、５歳の時に川に落ちて溺死寸前のところを救助され、一命を取り留めた。それが原因で内耳炎を患い失聴になった。以来、学校へ行けず、独学で学問を修めるとともに日本画にも励んだと思われます。

四条派へ出て修業

１７歳頃、人に勧められて本格的に日本画を学ぶため京都の四条派へ出て、久保田米僊、森寛斎に入門して四条派の画風を学んだ。京都府画学校（現：京都市芸術大学）、での狩野派・雪舟派・四条派など日本美術学科であるが、入学ではありません。四条派の特徴である写実的な画風からも四条派の系統の画家と呼ばれています。修業期間についての資料に記録が載せていない。

久保田米僊（四条派師事）

森寛斎（四条派師事）

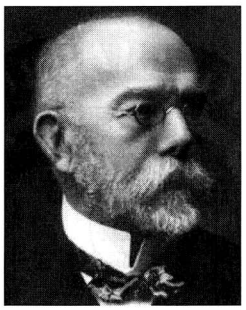
仁林聾仙

九州漫遊と結婚

明治 28 年、30 歳頃、亡兄の墓参と日本画の修業を兼ねて九州漫遊に出かけ、福岡県と鹿児島県等を巡り歩いた。特に耶馬渓には数ヶ月滞留し、細かにその山容水態を探求して山水を主なとする動機を得た。そして２年後、福岡県の山本えいと結婚。仁林家としては三男二女計５人であるが、仁林家系の詳細資料が残っていない。

画家活躍と贈呈

結婚三年後、大垣へ帰り、分家して東長町の居を定め、本格的に画家として出発した。明治 36 年、第５回大阪勧業博覧会に『初冬山水』を出品。明治 41 年、細菌学ロベルト・コッホ博士来県の時、岐阜県医師協会から依頼を受けて自作『養老瀑布』を贈呈。この頃、ベルギー国王やフランス大統領への贈呈に使用される等人気作家であった。大正５年、京城で開催された朝鮮始政五年朝鮮共進会に出品、二等銀牌を受賞。



細菌学　ロバルト・コッホ博士

満州へ渡る

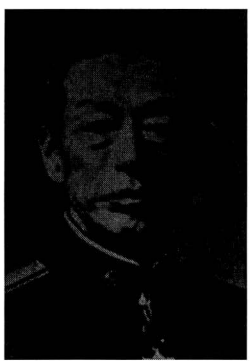
聾仙が大垣市出身の南満州鉄道総裁野村龍太郎の招きで満州へ渡ったのは大正 9 年（1920 年）。書画の鑑識に富んでいた野村龍太郎は聾仙の画才をいちはやく認め、大連に建設中のヤマトホテルの壁画製作のため呼び寄せた。聾仙は満州へ渡って、各地を旅して想を練り、六枚の壁画を完成した。

＊六枚の壁画　１、吹雪の北陵　２、驟雨の千山　３、遼河の夕照
４、蒙古草原の駱駄隊　５、安奉線の釣魚台　６、金剛山萬物相の暁霧

（これら壁画作品は残念ながら戦争のため行方不明）

満州の地が気に入り、生活基盤も出来た聾仙は、大正 13 年永住を決意し、家族を大連に呼び寄せ永住した。しかし、郷土の根強い人気から揮毫依頼も多く、度々帰郷してその依頼に応じ、郷土に多くの作品を残している。

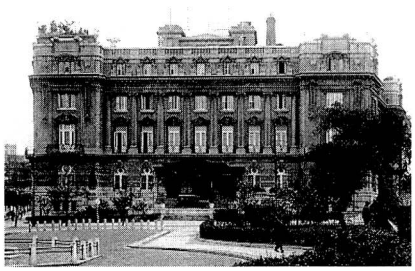
昭和 10 年 12 月 23 日、大連にて 70 歳の生涯を閉じた。



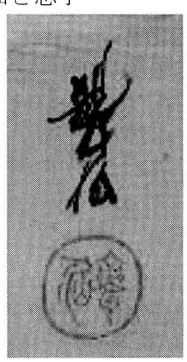
南満州鉄道総裁野村龍太郎

仁林聾仙と息子

達磨（軸装 119×101）昭和３年



大連ヤマトホテル



年　表
慶応元年（１８６５年）～昭和１０年（１９３５年）

| 西暦 | 年号 | 年齢 | ことがら |
|---|---|---|---|
| 1865 年 | 慶応元年 | | 2 月 1 日大垣藩士後藤五介の三男として大垣代官町（現：大垣市代官町）に生まれる<br>本名：後藤繁三郎（のち仁林と改名） |
| 1870 年 | 明治 3 年 | 5 歳 | 川に落ち一命とりとめるが内耳炎を患い、聾者となる |
| 1882 年 | 明治 15 年 | 17 歳 | 京都にて久保田米僊・森寛斎に師事し、四条派の画風を学ぶ |
| 1895 年 | 明治 28 年 | 30 歳 | 九州漫遊、耶馬渓に遊ぶ　数ヶ月滞留し、細かにその山容水態を探求する |
| 1897 年 | 明治 30 年 | 32 歳 | 九州福岡の山本えいと結婚 |
| 1900 年 | 明治 33 年 | 35 歳 | 分家として東長町に移住　この頃より本格的に画家として活躍はじめる |
| 1903 年 | 明治 36 年 | 38 歳 | 第 5 回大阪勧業博覧会にて二等賞銀牌を受賞 |
| 1914 年 | 大正 3 年 | 49 歳 | ・ベルギー国王に『不動明王』を献上<br>・ドイツの細菌学者ロバルト・コッホ来岐し、養老の滝見学、『養老瀑布』を贈る |
| 1920 年 | 大正 9 年 | 55 歳 | 南満州鉄道株式会社総裁野村龍太郎の招きで満州へ渡る<br>ヤマトホテル壁画製作（六面） |
| 1925 年 | 大正 14 年 | 60 歳 | この頃度々帰郷し、郷土に多くの作品を残す |
| 1935 年 | 昭和 10 年 | 70 歳 | 12 月 23 日脳溢血で大連にて急死　享年 70 歳 |

【参考文献】

郷土に輝く日本画家　坂井藍涯・青泉父子と仁林聾仙展　昭和 62 年
改訂増補　郷土大垣の輝く先人　平成 16 年 11 月 14 日
濃飛の人物と事業　大正 5 年 3 月 5 日
京都画壇で学んだ岐阜の画家たち　平成 19 年 9 月 21 日
岐阜県　日本画　郷土画家・画人名簿　昭和 55 年 4 月 1 日